

座談会 教育実習を終って

三十六年度の教育実習

は七月一日から三週間行

なわれた。文学部は付属

中学・付属高校において

行なったのであるが、そ

の反省や感想と云ったよ

うなものを、九月四日別

記の出席者によって話し

合ってもらったので、こ

こにそれを掲載させても

らった。編集委員会から

猛暑にもかかわらずお集

り下さった方々にお礼を

述べるとともに、編集上

の都合により発言の一部

を割愛させていただいた

ことをお断り致します。

司会 どうもお暑いところをお集りいた

きまして……。本日は過日行いました教

育実習につきまして、その収穫、反省、

感想といったようなものをお話合いた

だきたいと思いますが、その前に川島先

生の方から一言お話しただきたいと思

います。

川島 当事者は勿論のこと、この残暑の候

に先生方にご苦勞をおかけ致しましたこ

とを有難く、また恐縮に存じております

実習生はもうすでに自分の力の限界とか

その他いろいろ反省していることと思

いますが、それを互が話合うことによつて

一層巾広いものになるだろうと思いま

す。なお、それにつきましてご指導いただき

ました先生方になにぶんのご批判をいた

だきたいと存じます。よろしくお願い致

します。

ならないと生徒の方はどうしても近づい

てはくれないってことを痛切に感じまし

た。

岩崎 私もその点は同感です。実習を始め

る前に指導の先生からその点はくれぐれ

も注意されてたんですが、私の性格から

そうなんだでしようけど、時間中にあ

んまり生徒をおもしろがらせたんじゃないかと……(笑)……それじゃいけないと

気がついたら、こんどは気をつけずぎ

てかえって堅苦しくなったらいいんで

すね。(笑)

山口 その辺はみんなそうなんじゃないで

すか。やっぱりちょっと上ってるんです

ね。(笑)

司会 生徒に手こずったというようなこと

はなかったですか。

植木 僕は中学では一年生を受け持ったん

ですが、始めの日は堅くなって、両方だ

藤原 中学生は無邪気なというんですか、

指導中に活発だからこちらもやりやすいんです。だけど高校になるとちょっと大人びていて(笑) 僕が持ったのは女子ばかりのクラスだったもんで(笑) 質問なんかろくすっぽ答えません。そしてあくびやなんかをわざとのようにやるんですね。

安部 僕は中学の二年生と高校では一年生とを受け持ったんですが、年令的にその二つが近かったせい、あんまりへだたりは感じませんでした。ただ形にあらわれないところで思わずやっぱり違うなあって感じることはありました。

岩崎 私は中学から高校の場合に最もむづかしいなと思ったのは、私が使う言葉そのものでした。例えば私達の友達間での会話で使う言葉が高校生もそうですが、中学生の間ではほとんど通用しないんです。「概念」とか「抽象」とかいう言葉を使ってあることを説明しようとすれば、説明に使うことばの説明があるようなことになったりして(笑)

吉兼 そうですね。それを説明しようとする、とっさに良い説明がつかずに、例

題をひいたりなんかしてとうとう方言で説明つきたりしてね(笑)

司会 今の話は言語の抵抗といえますか、そういうことと、方言の問題だと思うんですが、そのへんのところを何か……例えば極端な方では方言排除というようなことを言う人もいましたが、最近ではそうじゃなくて共通語を育てていくために方言を見直さなくてはという考え方が強いようですけども国語教師としてこのことに無関心ではなかったらと思うんですが。

吉兼 私は方言は使っていないと思えますね例えば生徒との間に意志をスムーズにかよわせるのに、なれないよそ行きの言葉でより、より身近かな言葉の方が良ければ効果は大きいと思うんです。

司会 そうすると方言が近親感をませばそういうことに役立てるべきだということですか？

吉兼 それも勿論ですが、第一方言は悪いんじゃないということなんです。意志を伝達するために言葉を用いるんだと思うんですだから方言で通用し、しかもそっちの方がより完全にその役目を果たすとす

れば方言の方を用いるべきだと思いますしかしその場合これは方言であって共通語ではないってことを認識し、生徒にもさせとくことを忘れてはならないと思うんです。

佐藤 国語教師の場合方言を使っちゃまずいんじゃないですか。私は一切使わないんですが……

山口 私は吉兼さんと同じような意見で使っている、いや使うべきだと思うんですが。

出席者

(敬称略順不同)

大学側	学生側
大石	安部 善昭
川島	栗本千枝子
椎葉	岩崎 洋走
実習指導者側	植木常正
甲斐	加藤 健清
大野	藤原 良郎
後藤	山口 雄二
佐藤	吉兼 賢次
古庄	
司会	秦行正(大学)

が、第一方言といっても生きてるんですから。

司会 意見がわかれたようですが。一つ専門的な立場から大石先生、「国語教育における方言」というようなことで……。

大石 私は使っていると思うんです。生徒達にこれは方言だということを認識させることはくれぐれも大切だと思います。そしてその認識の上に効果の面で役立てば役立てなくてはいけないと思います。それからやはりどこまでも日本には本當の意味での標準語というものは出来てないんですから、まあ共通語ですね。その共通語で十分に意志の表現が出来、他人の使う共通語で理解することが出来るように指導することが大切なように考えます。

司会 それでは次に今までうかがったようなことが発達段階で、例えば皆さんは中学から高校まで一応あたられたわけですが、中学一年生と高校三年生とでは非常に違うと思うんですね。精神的にも身体的にも。そのようなときにどう影響し、どう処理されたかというようなことをうかがいたいと思うんですが。

山口 さっき岩崎さん、吉兼さんが言ったような抵抗と言うんですか、そんなのは痛感しましたね。こっちは意志がかったと思ってるのに、その道具に故障があるんですから、少々がっかりしますが、とにかく地道な力が必要のように思いました。

藤原 やっぱり結果としては僕達の力のなさからだと思うんです。僕なんかでもやはり授業中にねむくなるというような時は、たしかに先生の話がおもしろくないんですね。(笑) だからテクニクとしても興味のありそうなことを加えたりしますが……。

司会 今のような意見が出たわけですが。実際にみなさんが教材を取り扱われてですね教材研究は勿論でしょうけど、教授技術ということも小さなことではなかったらうと思うんですが、そのへんのことはいかがでした。

後藤 そのことに関してですね。山口さんが最初に安藤先生との間で、教育材料とか資料とか教科書などの取り扱いについて意見を持っておられたようですから、それを伺いますとおもしろいテーマにな

るんじゃないかと思えますが……。

山口 まあとりたててそうおっしゃられると困るんですけど……。(笑) 安藤先生から、教師としては教科書を進めるにあたって、偏見のないかたよらない、はっきりおっしゃったと思うんですが、解説者のようにやればいいんじゃないかというような問題を提議されたわけなんです。で、私はそれはおかしんじゃないですかというようなことだったわけですが……。(笑)

司会 それで実際にやってみてどうでした

山口 私は教科書はあくまで教材だということで進めたわけですが。私に取り扱ったのは、高校ですけれども、「マスコミニュケーション」の問題だったんです。ところでその教科書は、私も高校で習ったんです。つまり内容としては六、七年前のものなんです。だけど考えてみますとマスコミの発達はテレビの普及を筆頭にこの二、三年で急激なものだと思うんです。教科書ではラジオや雑誌・新聞はありますがテレビはないんですね。こんな時間的な古さ、その古さが内容的にもやはり古さを持つてることだと思っ

す。例えばそこで、民主的な社会では民主的なマスコミが行なわれるし、現在マスコミが民主的なのは社会が民主的なのだということを言ってるんですが、ここでの現在というのは、著者が書いた時をさすはずでなければならぬのに、実際にはそれより少なくとも六、七年後の今日、生徒達が習ってるというのはそのままです。大変むづかしいんですけど、だからそれに不足しているテレビを加えるだけで良いと言うことではすまないように思うんです。

司会 今のマスコミの問題では教材というものの方が大きなポイントになると思うんですがそれに関連して、時代の古いものがつまり古典じゃなくて今いわれたような現在通用しないものが教科書にとり上げられている、そうした事について古庄先生の場合中学でどう処理されていらっしゃるか、そしてどう処理すべきかというようなことをうかがいたいんですが。

古庄 よくわからないんですけど、教科書は新指導要領によってもそのまま教えるのではなくて材料となっていると思うん

です。ところでそれを材料として使えるかあるいは絶対きまったものとして、そのまゝのみに教えるかということとは、私達教師の力いかんによるものだと思います。今いわれたマスコミに関する文章を読んでないんですけど、マスコミの作られ方などということはおそらくふれてないんじゃないかと思うんです。

もちろん生徒の年令つまり理解力の程度に応じてやらねばなりません。民主的な社会といっても文字上でなくその構造を理解させないと、例えば毎日見ているテレビになぜ宣伝広告があんなに多いのかという事からしてわからないんじゃないかと思うけど。高校生でなくてももっと小さい子供から宣伝広告の多い事は知っていますよね。しかし、その意味を理解させるのは無理かも知れない。だけど高校生にそういう現実をよそにして、現在マスコミが民主的なのは社会が民主的だからといったような事だけ言っても仕方がないでしょう。私たちが自分の好みであると思ってる色や形が実はマスコミでつくられたものなのだという所にこそマスコミの本質があるんです。

もかく教育者は解説者であってはならないと思うんです。やっぱり学校教育という、例えば古い人間の交流の形をあえてとっている時その教師の力量とか責任性とかいうものが大きくかわってくるのだと思うんです。ですからその教材が個々の教師の中で消化されて、そして出てくると言う形をとらなければならぬしそういう力を持ち得ない教師になっ

後藤

はいけないんじゃないかと思うんです。その問題にはもっと根本的な問題があると思うんですが。それはいわゆる「先生」タイプということですが今度の実習生の方々ははっきり言って師範型の教生じゃなかったと思うんです。だから皆さん方の実習を従来のタイプと考えながらみればテクニクその他で同一視出来ないところがあったと思うんです。しかしだから劣っているという評価にはならないんじゃないでしょうか。逆に何か非常におもしろい、今後とも注意してみなければならぬ面が多かったと思うんです。そういう意味からさっきの山口君の意見について考えますと、単にマスコミを決められたものとしてはなしに



はっきりした見解に立った教師の考えを入れるということが新しい教師に要求されることのように思うんです。だから今度の実習では学校でのことが、師範型ではないにもかかわらず、日頃のものが最大限生かされたように思うんです。

良い面を生んだわけなんですけども、それらの基調に「指導案」というものがあると思います。これは一つの形式でしょうが、しかし一面自分の考えを一応客観化しておくということでは欠かせないものじゃないかと思うんですね。それに付いて、それを実際の指導の上はどう影響するように作られたか、またそれはどう影響したか、というようなことで……。

吉兼

さっきの後藤先生のおことは他の人のことだったろうと思うんですが(笑)やはり生徒の前でうまくやろうとする意識が働くんです。そのためにややもすると、生徒にへつらうことになるんです。だから教案を立てても内容とそれと一致しないんです。そこでおかしいと反省する時のポイントというか、基本的なものをぬきに、テクニクなどの面にばかりむけるんですね。事実、批判する人もそこをやるんです。そりゃ形にあらわれるから一番やりやすいこともあると思うんですけど……(笑)ですから私の場合、教案を立てる前に、例えば自分の実力の範囲内でどれだけ忠実にやったか、ということがぬきだっただように思うんです。

そしてそこを通り抜けて、実力以上の事をやれば教案と内容とに差ができる。しかし実力の範囲でそのままやると、こりゃ赤面ものじゃないかと思ような自尊心をもつという、何か大変外観を気にしすぎたと思うんです。(笑)

加藤

別に今のお話しや何かにつけ加えるというようなことはございませんが、教案を立てます時に、教科書以外のことをこれはおもしろいなあというようなことを、付け加えて、生徒が退屈したころをみはからって話したりしましたが、やはり問題はもっと他の大きな所のように思います。

司会

この問題をもっと具体的にしたいと思うんですが、高校で漢文をやられた方もいらっしゃるんですね？まず漢文のことから伺いましょうか。

加藤

漢文につきまして、私の以前に習ったのは旧字体だったもんですから、教科書からまず困ったんです。漢詩の所だったんで生徒がわり合い興味を示してくれただんで方法的にはやり良かったと思えます。

司会

一方ではまあ漢字制限が云々され、

それとは全く対照的に漢文教育の進行と
いったようなことがあるんですが、その
へんのことにつきまして大石先生のご意
見を一つ。

大石 漢文を、中学高校で教えることには
非常に意義があると思うんですが、その
一つは古典として教えることじゃないか
と思うんです。従って中学では以前のの
のと違って、いわゆる書き下し文などに
して、内容を重視して取り扱ってると思
います。そうすると本来の漢字を使わな
くても、だいたい当用漢字の範囲内でた
いして支障をきたさんのじゃないかと思
うんです。やはり漢文の内容は、日本古
典とは違った意味で、しかも日本に及ぼ
したいろんな面の影響からみても欠かせ
ないと思うんです。

司会 ここでそろそろ日本の古典について
ふれなければならぬと思うんですが。
「伊勢物語」や「奥の細道」を取り扱わ
れたようですが、いわゆる文語文で書か
れたこれらのものが生徒に対しては、文
字や言語の上ですでに一つの障害だろう
と思うんですが、その時の皆さんの苦心
談を一つ。

藤原 僕は「奥の細道」をやったんですが
形としては一応の解釈とそれに必要な文
法をやったんです。しかし最も重点をお
きたかったのは作者の旅に関する抒情感
といったものだったので。

粟本 私は「伊勢物語」をやったんですけ
ど正直言って私なんか自身が古典をやっ
ても、むづかしいとかやさしいとかよ
り、何と言うんですか一種の情性みたい
なものではないかと思うんです。ですか
ら「伊勢物語」をやった時も、藤原さん
とは逆に内容というようにことにふれる
余裕がなかったような気がします。普通
英語でやってみるような形で終ったんじ
ゃないかって。(笑)

岩崎 古典をやる場合古典のみがもって
るよさというんですか、そんなものとも
う一面の古典が現代に根をおろしている
ものというような、二つのことがらを把
握する必要があるんじゃないかと思うん
です。

古庄 それと同時にあまりにも古典主義者
になりすぎてもおかしいんじゃないです
か。現に私達でも「源氏物語」なんかを
読むより現代小説を読む方が楽ですし、

興味もあると思うんです。私達が古典を
やっていると、古典主義者にな
りすぎると現代文になったら全く手をあ
げるようなことになると思うんです。だ
から簡単な古典讚美だけでは間違いが大
きいんじゃないでしょうか。

甲斐 私も古典や漢文は必要だと思っ
てますが、例えば三十八年度から教育課程が
大きく変る中に、国語では現代文だけの
教科書が出来るんですね。そんな時に
いわゆる今までの国語教師の育てかた、
そして指導のし方では身動き出来なくな
るんじゃないですか。古語をあやつれる
教師じゃなくて、本当に文学をやる教
師じゃなくてはならないように思いま
すね。

司会 そろそろしめくりとしまして、今
後にそれらをどう生かすか。教師になっ
た気は早いでしょうが(笑)まあ理想と
いうようなところで……。

岩崎 なんというんですか、もっと正確さ
を自分自身に要求する必要があるように
感じました。例えば板書する字の一つに
しても、それ自体小さなことかも知れな
い、しかしその小さなことが不正確なの

はやはり全体もおほつかなくなると思う
んです。

吉兼 それは文学者の基本的な態度だと思
うんです(笑)とにかく今までのような
先生タイプではすまされないと思うん
です。そのことは学芸や教育学部系の人達
だってちゃんと把握してるんじゃないで
すかそしてそれではそれにかわるものと
いう時に問題があると思うんです。

藤原 実習を始める前に実習のむづかしさ
をいろいろ聞いたんですが、確かに技術
や何かの面ではそりやむづかしいことだ
らけでした。しかしそれを通りこしたと
ころでもっと大きなむづかしい面がある
ように思ったんですが……。

安部 どうもどうどうめぐりみたいですが
やっぱり力だっただけです。

粟本 正直言ってこれから始まるんじゃない
んですか。そんな感じですか。そしてそれ
だけで実習の意義ってものは果されたよ
うに思っています。

山口 たしかに制度の上では許されてい
ても、実際には学芸系を出なくて先生にな
ろうというのは異端だと思うんですが、
逆にいえばだからこそ私達のみが持つて

なければならぬ大切な要素があるよう
に思っていますね……(笑)

司会 一応まとまりがついたようですので
このへんで終りたいと思います。本日は
どうも有難うございました。